

## 産婦人科の先生方、助産師のみなさま、看護師のみなさまへ

いつもたくさんのお産をサポートしてくださりありがとうございます。

コロナ禍と呼ばれる過去に例のない状況の中、お母さんたちのお産をとりまく環境も大きく変わりました。PCR検査を受けられる方、新型コロナワクチン接種を選択される妊婦さんも増えているようです。

ところで、みなさまはPCR陽性＝コロナ感染者ではないことをご存知でしょうか。

PCR検査は、被験者から採取した新型コロナと「おぼしき」DNAの断片を、何十倍にも増幅して「あった」と断定しているにすぎない検査です。この検査ではウイルスが活着しているのか、不活化しているのか、自然免疫で既に排出されたあとの痕跡なのか、全く別の物質に誤って反応しているのか何もわかりません。

しかし、世間一般にこの検査の判定が絶対視されているために、どの病院や産院でもコロナ陽性者を出すことに怯えている現状なのではないかと思えます。

また、今年の8月から日本産科婦人科学会、日本産科婦人科医会、日本産婦人科感染症学会の連名の通達を受けて、妊婦へのワクチン接種が推奨されるようになりましたが、先生方はこの件について、どのように感じておられましたか？

昔から「赤ちゃんを授かったら身体に薬はなるべくいれてはいけない」「もし薬品をいれる場合は慎重に、副作用の少ない安全なものを」というのが通念だったように思います。

半年から1年足らずで開発され、未だ治験中である人類初の遺伝子ワクチンを、簡単に妊婦の体に投与することに対して、大きな違和感と共に怖さを感じます。

ワクチン接種推奨の通達の後、すぐに「千葉県のコロナ感染した妊婦さんの赤ちゃんが早産で死亡」というニュースが大々的に報道されました。それにより「妊婦はコロナで重症化しやすい。感染したら赤ちゃんに何があるかわからない」というイメージが世間に広がり、多くのお母さんたちがワクチン接種を考え始めたように思います。

しかし、妊婦の重症化といっても「高齢」「肥満」「高血圧」「糖尿病」といったリスク因子がなければ、全ての妊婦に同じような懸念があるわけではありません。

第一、新型コロナはほとんどの方が、無症状から軽症で済んでいるのです。また「母親のコロナ感染で赤ちゃんに影響が出た」という事例もありません。

千葉県のご婦さんの赤ちゃんが死亡したのは、搬送先の病院が早急に見つからなかったためであり、国の医療体制の問題が原因であったことは明白です。

一方で、厚労省ホームページのワクチン接種後の死亡報告では、「25歳の妊婦さんが8月初旬、血栓症になり、お腹の赤ちゃんと共に死亡した」という事例が記載されています。

アメリカやイギリスの副反応報告を見ましても、ワクチン接種後の流産、死産、月経異常など、多数の事例の報告があります。

また、最近では「マスク着用で出産」「産前のPCR検査で陽性の妊婦は帝王切開」「新生児とも隔離」ということを現実に行う病院も少なくないと聞いております。

「出産時の呼吸法がいかに母子の身体のために重要か」ということを十分ご存じであるはずの病院側が、出産時の妊婦さんたちの大切な呼吸をマスクの着用で妨げ、その結果、お産をより苦しいものにしてしまっているという事実が痛みます。妊婦や胎児に危険が及ぶのではないかととても心配です。

「死亡率がインフルエンザ以下」の新型コロナを過剰におそれ、前述した不確実なPCR検査をもとに帝王切開の判断をすれば、健康であるはずの母子に様々な負担が強いられます。自然分娩の道がその後も閉ざされますし、手術費用もかさみます。

また過度の除菌は、お母さんと赤ちゃんの皮膚の常在菌にダメージを与え、自然免疫のはたらきを弱めてしまいます。アレルギー症状をかえって起こしやすくしたり、様々な感染症に対して脆弱な状態をつくるとも言われております。

病院側からの「ワクチン接種の推奨」や「過度の感染対策」などが、母子に不自然で危険なお産を迫っている場合があるということを、お母さんと赤ちゃんの健康に寄り添うみなさま方に、今一度お考えいただきたいと思っております。

同封しましたチラシの情報を、先生方、助産師さん、看護師さん、事務のみなさま他、多くの方々と共有していただければ幸いです。

みなさまが各々ご自身で「コロナ・パンデミックの本当の現状や情報の真偽」を、ぜひ時間をとってお調べ下さり、今後のより良い産科医療に役立てていただきたい、と心から願っております。

年 月 日

---